

所属・氏名（看護学部 看護学科 氏名：三味 祥子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) チーム医療時代の看護基礎 教育の内容と方法の充実に 関する研究	共著	平成 26 年 3 月	厚生労働科学研究 費助成金,地域医療 基盤開発推進研究 事業,平成 24-25 年度総合研究報告 書.	平成 24 年度は、総括研究では文献検討と多様な 看護実践の場に勤務する看護師への面接調査から 看護の機能と役割を明確化した。分担研究では 看護実践能力の卒業時の到達目標（厚生労働 省, 2011）を達成するために必要な知識と教育内 容を抽出した。平成 25 年度は総括研究では文献 検討と面接調査結果から抽出された看護の機能 と役割を果たすための教育内容を明らかにし、 教育内容の吟味を重ね、教育内容群とし、学習 の順序性などを考慮しつつカリキュラムの構造 （案）を作成した。 (総ページ数：141 項) (小山真理子、グレッグ美鈴、植田喜久子、鈴 木美恵子、中信利恵子、実藤基子、山本加奈 子、三味祥子、鈴木香苗、坪井桂子、内正子、 山岡由実、池西悦子)
2 (学術論文) 社会保障制度改革を踏まえ た看護実践能力向上のため の看護基礎教育のあり方	共著	平成 27 年 3 月	厚生労働科学研究 費助成金,地域医療 基盤開発推進研究 事業,平成 26 年度 総合研究報告書.	社会保障制度改革を踏まえ、在院日数が短縮 され医療機関が益々急性期化することを予測 し、これからの看護基礎教育における効果的な 臨地実習のあり方について、実習枠組みや方法 を明らかにすることを目的とした。実習の枠 組みと実習科目、実習方法(案)を作成した。 作成に当たっては、米国における看護職への 質と安全の教育（QSEN）の動向を調査し、 わが国の看護基礎教育への応用を検討した。 (総ページ数：108 項) (小山真理子、宮本千津子、鈴木美恵子、鈴木 美恵子、戸田由美子、眞崎直子、山村美枝、 山本浩子、中村もとゑ、三味祥子、宗内桂、 藤井知美、荒井有美、岡垣竜吾、萱間真美、 北池正、佐藤由美、高田昌代、田村徹太郎、 野上康子)
3 (学術論文) 2 年次看護学生が基礎看護 学実習前 OSCE をとおして 臨地実習で実感した OSCE の学習効果 《 筆頭論文 》	共著	平成 28 年 3 月	日本赤十字広島看 護大学紀要,第 16 巻	基礎看護学実習前 OSCE が臨地実習におい て、学生の学びにどのような効果をもたらした かを明らかにすることを目的とし、無記名 自記式質問用紙により 2 年次看護学生 146 名 を対象とし調査した。【対象者理解のために疾 患と症状を結びつけ学習する】【対象者を理 解するための観察・情報収集ができるように 取り組む】、【アセスメントから対象者のニー ズを捉えた援助を実施する】などを学習効果 とし捉えており、実習前 OSCE は臨地実習に 臨む学生の意識づけとなり、臨地実習で行動 することの認識につながることを示唆され た。 (該当論文のページ数：9 項) (三味祥子、吉田和美、山本加奈子、川西美佐)